

(別添2)

## 事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別：保育所

事業所名（施設名）：長野市芋井保育園

### 第三者評価の判断基準

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。  
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態  
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態  
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 <input type="checkbox"/> 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。	<p>○全体的な計画は、児童憲章、児童福祉法、保育所保育指針等の趣旨をとらえ、保育理念、保育方針、保育目標にもとづき、子どもの発達や家庭の状況、地域の実態などを考慮して編成している。</p> <p>○新保育所保育指針にもとづいて全体的な計画編成途中の文書を職員に配布して、意見を募り職員の意向が反映できるよう取り組んでいる。子どもの最善の利益を考慮し、保育の質の向上に向けて全体的な計画の評価・見直しを定期的に行い、次の編成に活かされることが望まれる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	<p>■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。</p> <p>■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。</p> <p>■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。</p> <p>■ 9 内装等には、木材を利用している。</p> <p>■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。</p> <p>■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。</p> <p>■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。</p>	<p>○環境整備マニュアルが作成され、子どもが居心地良く過ごせる環境が整備されている。避難訓練時に合わせて環境の安全点検を行い記録している。年1回業者による遊具の点検が行われ、「保育環境チェック項目」に沿って室内、トイレ等の環境確認をしている。トイレ・水周り、寝具等の点検チェック表の用意があるので活用されることが望まれる。</p> <p>○室内で使う家具や遊具は、子どもの成長に合わせて用意されている。玩具の種類・素材、家具の配置等を定期的に点検・見直している。</p> <p>○空調設備が設置された、空き部屋を利用して昼寝や落ち着いて過ごせる居場所がある。</p> <p>○トイレ・洗面所は、次亜塩素酸を使い清掃の徹底、子どもの好きな絵を貼るなどして工夫している。</p>
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<p>■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。</p> <p>■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。</p> <p>■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。</p> <p>■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。</p> <p>■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。</p> <p>■ 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<p>■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。</p> <p>■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。</p> <p>■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。</p> <p>■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。</p> <p>■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。</p>	<p>○子どもが正しい姿勢が保持されるよう写真を掲示し、体感を鍛える等の運動を取り入れている。歯磨きは、当番の子どもが前に出て砂時計を用いて「上の歯、下の歯」と声をかけながら行っている。図や絵を利用して当番表をつくる、食事する時間は手作り時計の針を利用する等、分かりやすく工夫している。絵本や歌などを用い、異年齢保育の中で楽しく基本的な生活習慣が身に付けられるようにしている。</p>
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b)	<p>■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。</p> <p>■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。</p> <p>■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。</p> <p>■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。</p> <p>■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。</p> <p>■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。</p> <p>■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。</p> <p>■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。</p> <p>■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。</p> <p>■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント	
A	1	(2)	⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■ 34	0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。	○受け入れ対応マニュアルが整備され、0歳児保育の受け入れをしていたが、現在は入園希望児がいないため実施されていない。職員体制を整えて一時預かりで受け入れることがある。調乳室、ベビーサークル、0歳児用の玩具、絵本などの用意がされ0歳児の受け入れ体制は整っている。
					■ 35	0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。	
					■ 36	子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。	
					■ 37	0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。	
					■ 38	0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。	
					■ 39	0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。	
		⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■ 40	一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。	○未満児保育マニュアルに「年齢・月別保育のポイント」「子どもの姿 保育者の気配りと言葉かけ」が整備され職員は理解して保育にあたっている。イヤイヤ期の自我の芽生えを大切に受け止め、子どもの気持ちを確認しながら穏やかに接するよう努めている。友だちとの仲立ちは最小限に留めて、一時預かりの子どもが来た時は在園児とスムーズな関わりができるよう仲立ちをしている。 ○棚の玩具や絵本は、子どもたちが取りやすいよう配慮して並べている。玩具の収納棚前の床に明るい配色の敷物を敷き、子どもが落ち着いて過ごせるよう工夫している。排せつ、手洗い等を見守り、声をかけながら援助している。職員が保育室から離れることがないよう大人用トイレの設置が望まれる。 ○幼児と一緒に行事参加する、小学校で生まれたヤギを見に出掛ける、調理員や年長児と一緒に食事をする等年長児や大人と接する機会がある。 ○子どもの状況は、連絡ノートの活用や送迎時に情報交換を行い家庭と連携を図っている。	
				■ 41	探索活動が十分に行えるような環境を整備している。		
				■ 42	子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。		
				■ 43	子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。		
				■ 44	保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。		
				■ 45	様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。		
■ 46	一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。						

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<input checked="" type="checkbox"/> 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。	<p>○3歳以上児が、10人以下のため3歳児、4・5歳児の担当に分け、保育者2人体制で保育が行われている。年齢別に保育目標・指導計画にもとづいて保育材料等を工夫するなどして一人ひとりの成長に合わせた保育が行われるよう取り組んでいる。体重測定時に年少児への着替えの手伝いをする等の姿が見られる。年長児への憧れ、お互いを思いやる優しさ、言葉で相手に自分の気持ちを伝えることを大切にして、協力できる環境づくりに心掛けている。子ども達の意見を尊重して行事、遊びの展開ができるよう担当保育士が連携して日々、取り組んでいる。</p> <p>○年長児は、さまざまな行事の経験を通して友達と協力して発表する楽しさや、表現する満足感や達成感を味わい、自信を深め就学への期待と自覚が持てるよう意識的に取り組んでいる。</p> <p>○子どもたちが取り組んでいるリズム運動を保護者に、地域の高齢者と交流する「お茶のみサロン」で歌などを披露する機会を設けている。祭り行事やプール遊び等は小学生と一緒に交流をしながら行っている。</p>
			⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input type="checkbox"/> 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 <input checked="" type="checkbox"/> 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<p>■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。</p> <p>■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。</p> <p>■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。</p> <p>■ 62 年齢の異なる子どもが一緒に過ごすことに配慮している。</p> <p>■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。</p> <p>■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。</p> <p>■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。</p>	<p>○長時間保育は、専用の保育室で行われ、絵本や玩具を備えてゆったりと静かに過ごせるよう配慮している。未満児も一緒に保育になることがあるため怪我や室温に特に注意をしている。</p> <p>○子どもの夕食時間を考慮しておやつのは提供はしていない。水分補給は行っている。</p> <p>○連絡事項は、担任から直接伝えるようにして、必要に応じて長時間保育担当職員が保護者に伝えている。さらに、伝えた内容や保護者からの連絡事項は、関係者に伝え連携を図っている。保護者が、仕事の都合で予定より長くなった場合も継続して対応をしている。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<p>■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。</p> <p>■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。</p> <p>■ 68 保護者が、小学校以降の子ども生活について見通しを持てる機会が設けられている。</p> <p>■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。</p> <p>■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。</p>	<p>○就学を見通した年間計画を小学校と連携して作成している。保育所、小学校それぞれの行事（プール参加、ハロウィン祭り、わくわく祭り等）に参加し、小学生との交流を図っている。</p> <p>○保護者に向けて、就学前個別懇談会の実施、小学校行事に参加、一日入学を通して保護者が入学以降の見通しが持てる配慮をしている。</p> <p>○保育者、小学校の先生と意見交換の機会を設けている。懇談内容は職員に周知されている。関係する保育者は、施設長の責任のもとで「保育所児童保育要録」の作成をしている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント		
A	1	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b)	<input type="checkbox"/>	71	子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。	○健康管理保健計画が整備されている。健康に関する方針、情報など保護者に対して入園時のしおりに沿って説明して周知されている。感染症の流行期など必要に応じて、クラス・園だよりで知らせ、送迎時に口頭で知らせている。子どもの感染症、疾病等に対する知識、対応・予防策を含めた健康管理に関する基本的なマニュアルの整備が期待される。○一人ひとりの健康に関する情報は、毎日関係する職員で共有して周知が図られている。体調変化、怪我に関して保護者に伝え、事後の確認をしている。○乳幼児突然死症候群に関する知識が職員に周知され、睡眠時における安全確認を行っている。安全確認時間の見直しを図っている。一時預かりの保護者に対して睡眠時の姿勢に関して注意を促している。次年度、重要事項説明書に乳幼児突然死症候群に関する項目を入れ保護者に必要な情報提供をする予定を伺った。
					<input checked="" type="checkbox"/>	72	子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。	
					<input checked="" type="checkbox"/>	73	子どもの保健に関する計画を作成している。	
					<input checked="" type="checkbox"/>	74	一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。	
					<input checked="" type="checkbox"/>	75	既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。	
					<input checked="" type="checkbox"/>	76	保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。	
					<input checked="" type="checkbox"/>	77	職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。	
					<input type="checkbox"/>	78	保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。	
		② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<input checked="" type="checkbox"/>	79	健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。		
				<input checked="" type="checkbox"/>	80	健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。		
				<input checked="" type="checkbox"/>	81	家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。		

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント	
A	1	(3)	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<input type="checkbox"/>	82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。	○「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」の作成を検討している。今後、ガイドラインにもとづいて対象児への対応の備え、保護者に説明をされることを期待したい。 ○アレルギー疾患、慢性疾患のある子どもについて研修を受けて、職員に復命をしている。
					<input checked="" type="checkbox"/>	83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。	
<input checked="" type="checkbox"/>	84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。						
<input checked="" type="checkbox"/>	85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。						
<input checked="" type="checkbox"/>	86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。						
<input checked="" type="checkbox"/>	87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。						
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<input checked="" type="checkbox"/>	88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。	○食育計画にもとづいて食事に関心を持ち、食事マナーを身につけ、健康と食事に興味を持てる取組が行われている。調理員は、毎月テーマを決めて「食育の日」に食に関する話をする、月2回、食卓に出された食材は、ホワイトボードを活用する工夫し、説明をしている。保育園・クラスだより、食育だよりを通して保護者に食育に関する取組を伝えている。 ○子どもたちが関り、夏野菜や大根を育て収穫して給食に出される、おやつや弁当づくりをする等、食への興味や関心を高める取組を行っている。 ○園庭で花見をしながら食事する等して、楽しく食事が出来る工夫をしている。食器の大きさ、盛り付けの配慮をして自分で食べ終えた達成感や満足感が得られるよう援助をしている。
			<input checked="" type="checkbox"/>	89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。			
			<input checked="" type="checkbox"/>	90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。			
			<input checked="" type="checkbox"/>	91 食器の材質や形などに配慮している。			
			<input checked="" type="checkbox"/>	92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。			
			<input checked="" type="checkbox"/>	93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。			
			<input checked="" type="checkbox"/>	94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。			
			<input checked="" type="checkbox"/>	95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。			



評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(4)	② 子どもがおいしく安心して食 べることのできる食事を提供 している。	a)	<p>■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。</p> <p>■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。</p> <p>■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。</p> <p>■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。</p> <p>■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。</p> <p>■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。</p> <p>■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。</p> <p>■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。</p>	<p>○地元の旬の食材が利用され、計画的に伝統食、行事食の提供がされている。</p> <p>○食事量、嗜好の配慮をして無理なく食事が出来る盛り付けを子ども一人ひとりに確認をして調整し、お代りができる配慮をしている。調理員と一緒に食事をして食事の様子を見て、子どもから食事の感想を聞き、子どもの声、残食・検食の状況を把握して献立に反映している。</p> <p>○衛生管理体制が確立し、マニュアルに沿って衛生管理がされている。</p>
	2 子育て 支援	(1) 家庭との緊 密な連携	① 子どもの生活を充実させるた めに、家庭との連携を行って いる。	a)	<p>■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。</p> <p>■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。</p> <p>■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。</p> <p>■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。</p>	<p>○未満児、幼児ともに連絡帳の活用、送迎時の情報交換を行っている。懇談会の内容は職員に報告して周知されている。保護者からの要望・意見などは、職員会で検討して便りにて保護者に知らせている。</p> <p>○個別懇談会、運動会、お楽しみ会等の保育参加を通して、保護者と子どもの成長を共有する取組を行っている。</p> <p>○家庭・保護者との情報交換に関する記録は連絡帳にされ、懇談会記録は担当保育士が記録をしている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント	
A	2	(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	■ 108	日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。	○幼児の送迎は、遊園バスとなっている。通園バスには運転手、添乗員が乗車して家族とコミュニケーションを図っている。添乗員は携帯電話で必要に応じて保育園と連絡を取り、家族と信頼関係を築いている。未満児は家族が直接保育所に送迎している。保育所に送迎される家族とは担当が対応するよう努めている。 ○保護者からの相談は、担当保育士が受け、必要に応じて主任・施設長に相談する仕組みがある。保護者から就労等に関する相談は随時対応している。相談内容により関係機関に助言が受けられる体制にある。これらの相談内容を適切に記録されることが望まれる。
					■ 109	保護者等からの相談に応じる体制がある。	
					■ 110	保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。	
					■ 111	保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。	
					□ 112	相談内容を適切に記録している。	
					■ 113	相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。	
					■ 114	虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。	
			■ 115	虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。			
			■ 116	虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。			
			■ 117	職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。			
			■ 118	児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。			
			■ 119	虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。			
			□ 120	マニュアルにもとづく職員研修を実施している。			
			10 / 11 ページ				

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<p>■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。</p> <p>■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。</p> <p>■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。</p> <p>■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。</p> <p>■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。</p> <p>■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。</p>	<p>○職員は、定期的に自己評価を行い、主任保育士・施設長が確認して書き方、評価方法等指導・助言をしている。自己評価の内容に関して職員会議に職員から提案があり検討され、絵本の活用方法等、保育の改善や専門性の向上に向けた取組に繋げている。また、公開保育、訪問保育の経験を自己評価して、職員会議で検討している。</p> <p>○全体的な計画を通して「子どもの育ちを捉える視点」「保育士自身の保育を捉える視点」を振り返った自己評価と、保育実践や専門性の向上を図るために保育所全体の評価に継続的に取り組まれることが期待される。</p>